

任ガヲキ。黒ノ末トテ黒キ馬ノ少チイサカリケルガ、早走ノ逸物ナリ、多ノ馬ノ中ニ、秀衡殊ニ秘藏ナリケレ共、軍ニハ能馬コソ武士ノ寶ナレバ、山ヲモ河ヲモコレニ乗リテ敵ヲ攻メ給ヘトテ、判官奥州ヲ立ケル時進セタル馬ナリ、宇治川ヲモ渡シ、一谷ヲモ落セシ事此馬ナリ、一度モ不覺ナカリケレバ、吉例ト申シケルヲ、判官五位尉ニ成ケルニ、此馬ニ乘リタリケレバ、私ニハ大夫トモ呼ビケリ、片時モ身ヲ放タジト思ヒ給ヒケレドモ、責テモ繼信、光政ガ悲サニ、中有ノ路ニモ乗レカシトテ被引タリ、兵共是ヲ見テ、此君ノ爲ニ命ヲ失ハン事、惜カラズトゾ勇ミケル、

〔吾妻鏡二〕治承五年元○養和六月廿一日乙丑、令還鎌倉頼○源朝義澄獻甲以下、又進馬一疋、號髮不捺、度合戰駕之、無雌伏之例云云、

〔吾妻鏡十五〕建久六年六月廿八日辛巳、令著御于美濃國青波賀驛○中爰稻毛三郎重成妻北條殿息女於武藏國、病惱太危急之由、飛脚到著、仍欲馳下、將軍賜駿馬一疋、黑重成則駕之、揚鞭云云、七月一日癸未、今日稻毛三郎重成、馳付武藏國、恩賜馬已如龍、仍號三日黑云云、

〔太平記六〕關東大勢上洛事

長崎惡四郎左衛門尉ハ、○中一部黒トテ、五尺三寸有ケル、坂東一ノ名馬ニ、○下

〔太平記十〕稻村崎成干瀉事

懸ル處ニ、濱ノ手破テ、源氏已ニ若宮小路マデ攻入タリト騒ギケレバ、相摸入道嶋津ヲ呼寄テ、自ラ酌ヲ取テ酒ヲ進メ、三度傾ケル時、三間ノ馬屋ニ被立タリケル關東無雙ノ名馬、白波ト云ケルニ、白鞍置テゾ被引ケル、見ル人はヲ不浦山ト云事ナシ、○中

長崎次郎高重最後合戰事

長崎次郎、甲ヲバ脱捨○中兔ト雞ト云ケル坂東一ノ名馬ニ、金貝ノ鞍ニ、小總ノ鞆懸テゾ乘タリケル、